

「海のフロンティアを拓く岡村健二賞」創設趣意

このたび、テクノオーシャン・ネットワーク（TON）は、岡村健二氏のご遺志を継ぐ事業の一つとして、ご遺族のご芳志をいただき、同氏が所属されていた三菱重工業株式会社のご厚意のもと、「海のフロンティアを拓く岡村健二賞」を創設しました。

故岡村健二氏は、日本の海洋開発について、先行的・共通的技术開発の必要性、重要性を強調され、海洋科学技術センター（JAMSTEC：当時）の設立および初代理事の一人として機器開発や深海研究の実施に積極的に取り組まれました。これは国家プロジェクトである有人潜水艇「しんかい 2000」や「しんかい 6000」の実現につながりました。また、海洋技術の先進国である米国を目標にわが国の海洋工学の向上に腐心され、わが国の海洋関係者に米国の技術レベルとわが国のそれとをしっかりと認識することの重要性を常に考えられ、米国で毎年開催される海洋国際コンベンションである OCEANS や ROV International（現 Underwater Intervention）等を日本に誘致することを考えておられました。その夢は、岡村氏が物故された後、ようやく 2004 年に NOAA 長官を基調講演に招いた Techno-Ocean/OCEANS 2004 として実現したわけです。また、氏は、技術者として世界トップクラスの高速ディーゼル機関を開発、完成させたディーゼル機関の国際的権威者でもあります。

このように、技術者として常に新しい技術への挑戦を続け、国際的視野に立ち、先見の明をもたれた岡村健二氏は、海洋立国日本の発展のためにご活躍され、多大なるご貢献をされました。

そこで、TON は、2010 年の Techno-Ocean 開催を機に、岡村健二氏の社会的功勞を偲び、学術的功績を讃え、「海のフロンティアを拓く岡村健二賞」を創設し、同氏の遺志を継ぐ我が国の若い研究者・技術者に対して、これを贈呈します。

岡村健二氏 プロフィール

大正元年 12 月 8 日長岡市にて出生。昭和 9 年東京帝国大学工学部卒業後、同年三菱航空機入社。昭和 39 年社名改称により三菱重工業機転籍。本社技術本部技術管理部長、同社技術本部長代理等の要職を経た後、昭和 62 年 1 月まで同社技術本部顧問。昭和 39 年 5 月より菱日エンジニアリング機取締役、三菱開発機常務取締役、菱和海洋開発機取締役社長を歴任。昭和 46 年海洋科学技術センター理事、昭和 61 年同顧問。昭和 50 年国際海洋資源工学委員会（ECOR）会長。昭和 26 年米国 Naval Academy から「船用高性能ディーゼル機関の開発」で PhD を授与。昭和 30 年紫綬褒章、昭和 55 年第一回 MTS 国際賞、昭和 58 年勲三等瑞宝章、昭和 62 年国際燃焼機関会議ゴールドメダルなどを受賞。平成元年 1 月 15 日逝去。

2010 年「海のフロンティアを拓く岡村健二賞」



福場 辰洋

テクノオーシャン・ネットワークは、最先端技術であるマイクロ流体デバイスを海洋現場計測の分野に積極的に取り入れる研究を遂行し、独自の視点をもって世界でも類を見ない独創的な研究を展開してきた福場辰洋博士（東京大学生産技術研究所特任准教授）の顕著な業績を讃えるとともに、今後のさらなる活躍を期待して本賞を授与する。

福場氏は東京大学海洋アライアンスの総合海洋基盤（日本財団）プログラムに参画し、研究・教育を通して新たな海洋人材の育成に取り組んでいる。

海洋微生物学分野をバックグラウンドとする福場氏は、それまでの経験を活かして、小型で可搬性の高い現場型微生物遺伝子解析装置の開発に取り組んできた。近年では、マイクロ流体デバイス技術を応用して、微生物の活性測定や金属イオン濃度測定、さらには半導体化学センサの高機能化等、新たな研究を積極的に展開している。平成 22 年 9 月にはマイクロ流体デバイスを応用したマンガンセンサや共同研究者らの開発した化学センサ群による未知の熱水鉱床探査を目的とした研究航海を遂行し、新規の熱水活動を伴う熱水鉱床を発見することに成功するなど、極めてインパクトの大きな成果を上げた。また、深海だけでなく、沿岸域における赤潮藻類・栄養塩の連続モニタリングへの展開や微細藻類の遺伝子組み換え支援技術への応用を模索する等、新たな海洋科学の展開と海洋環境の保全・資源の持続的な利用に資する技術基盤を構築しつつあるなど、最先端技術であるマイクロ流体デバイスの海洋環境への応用については氏の研究が世界をリードしている。

テクノオーシャン・ネットワーク理事長 浦 環